

# 令和 5 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立梅若小学校
校長名	安藤 芳典

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・ R4 年度の同 4 年生と比較して、4 教科で正答率が高かった。特に国語と理科においてはほぼ全国平均となっている。</li><li>・ 6 年生の算数「割合」では、全国平均や目標値を上回った学級がある。また、「分数の計算」では、全国平均を上回った学級がある。算数において R4 年度の結果と比べ、学年全体の D・E 層の割合が、約 5 ポイント減った。(55.5%→50%)</li><li>・ 6 年生の理科において R4 年度の結果と比べ、学年全体の D・E 層の割合が、約 10 ポイント減った。(63.1%→53%)</li><li>・ 5 年生の国語の文章を書く問題では、全国平均正答率を 18%以上上回り、25 名中 21 名が目標値を上回った学級がある。また、社会で目標値や全国平均を上回った学級がある。</li><li>・ 2 年生の九九の定着率は九九道場の成果が上がっている。また、足し算・引き算の正答率が目標値よりも 3 ポイント程度高い。国語では、文章の読み取りの正答率が目標値よりも 2 ポイント%以上高くなっている。</li><li>・ 理科 4 年「植物の育ち方」では、全国平均を 3 ポイント上回ることができた。また、6 年「植物の発芽と成長」の記述問題では、目標値を 4.1 ポイント上回ることができた。</li><li>・ 3 年生の算数において、1 けた + 2 けたの繰り上がりのある計算の正答率は 96%であった。また、3 の段、9 の段の九九の正答率は 90%を超えた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全体的な傾向として、学年進行に合わせて学力の低下が各教科で見られる。2~6 年生の全教科において全国平均を下回った。特に昨年度全国平均を上回っていた 2, 3 年生のいずれも本年度全国平均を下回っている。</li><li>・ 教科別では、理科 5, 6 年生の正答率が低く、45%以下の正答率である。植物や空気など生活に身近な事象の基礎的な知識が定着していない。</li><li>・ 社会科においては、4~6 年生のいずれも正答率が 45%以下である。自動車生産の基礎知識や自然災害と生活についての関連が十分定着していない。また、人々の思いや願いを考察することに課題がある。</li><li>・ 国語科においては、各学年の正答率が 45~47%にとどまっている。長文読解を約半数が苦手とし、最後まで読み切れずに回答したり、諦めたりする傾向がある。特に意見や感想、考察を文章で表すことが不得意で無回答が 15%の学年もある。<ul style="list-style-type: none"><li>2 年生では聞き取りや読み取りが低い。</li><li>3 年生では漢字の書きや読みが徹底できていない。また、説明文を順番に読み取ることが課題であった。</li><li>4 年生では言葉の学習について誤答が多く、基礎知識が定着していない。また、アルファベットやローマ字の定着が十分ではない。</li><li>5 年生でも漢字の読み書きが定着していない。ことわざなどの言葉についても身につけていない傾向が高い。説明文の要旨や相互の関連性について思考することが課題である。</li><li>6 年生では聞き取りで多くの子供が取り違いをしている。言葉の基礎知識も十分とは言</li></ul></li></ul>

えない。説明文物語文のいずれも読み取りに課題がある。

- ・算数科では最も学年進行に伴う低下が顕著である。2年生では100までの数の構成や大小関係といった数量感覚が身につけていない。文章問題や比較など思考力を必要とする問題は課題である。

3年生ではおおむね良くできていると言えるが、加減算を中心に技能が身につけていない部分がある。図形や立体も苦手と言える。

4年生では小数の加減算や基礎的な乗除算に間違いが多く見られる。また、数の大小など数量関係も課題である。

5年生では小数や分数の数量関係や乗除算角度など基礎的な知識や技能でつまづいている。概数にする技能も十分ではない。

6年生では数量の大小比較など量感を伴っていない。図形では面積や決まり事などの知識面での誤答が多い。

- ・理科においては、基礎的な知識と観察や実験から得られたデータとの関係性の定着が十分ではない。

4年生では太陽や磁石など得られた知識を活用した思考面での誤答が多い。電気の通り道は十分理解出来ていないことが分かった。

5年生では得られた知識や結果から推測や想像することが特に苦手であることが分かった。また、実験单元よりも観察单元の方で誤答が多い。全般的に基礎知識の定着が足りない。

6年生では類似した事例を類推したり、まとめたりする抽象化が苦手である。また、植物や実験道具などに対する知識も十分とは言えない。

- ・英語についてはアルファベットが十分に定着していない実態がある。また、聞くについても基礎的な語彙知識不足が影響しているため、特に苦手である。英作文に至っては無回答の児童も多い。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感は各学年とも比較的高く、全国平均を超えている。学年進行による違いはない。自己肯定感と学力の相関関係は見られない。</li> <li>・いじめに関する多くの設問では、95%以上の児童が否定的な回答をしており、学力層における相関関係は認知出来ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習について全くしない比率が2年生13.3% 3年生26.4% 4年生30.6% 5年生43.9% 6年生36.2%とかなりの高率で存在する。学力との相関関係は高く、どの学年もC,D層の比率は高い。全国平均と大きな差がある。</li> <li>・学力層とSNSやネット利用時間との相関関係はどの学年も見られない。</li> <li>・墨田区独自調査のうち、学習に自信があるや考えたり挑戦したりすることに関して否定的な回答が学年進行に従って増え、6年生では50~60%以上にも達する。</li> <li>・うちの人が勉強を見てくれるかの設問で、どの学力層でも15~25%見てくれないと回答している。</li> <li>・自分の意見や考えを主張できない比率が高い。高学年では50~70%程度が否定的な回答をしている。</li> </ul>

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年各教科共に課題解決学習を行っているため、児童は主体的に課題を見つけて解決しようとする学習習慣が身についてきた。</li> <li>・学習に対して大変意欲的で学級や学年をリードできる力を身につけている児童が増えてきた。進路や夢に対する意識も高くなっている。</li> <li>・全教員が各教科において課題解決指導に取り組み、指導法のスキルを上げたと共に、授業力が大きく向上した。算数ではほぼ全ての単元と時間で課題解決指導を行うことができるようになった。国語や理科での課題解決指導法も定着し、相談や疑問点を校長にレクチャーを求める体制ができている。</li> <li>・若手授業研究会が機能し、相互に授業研究を行う土壌が定着した。切磋琢磨して授業力を向上させようと意欲的である。</li> <li>・九九道場やわり算道場に児童が主体的に参加し、児童の学習に対する意欲が向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習について取り組みが浅い児童が各学年一定数存在する。学習に対して諦めや面倒さなど怠学傾向の場合がある。</li> <li>・与えられた学習をこなすことが精一杯で、学習の楽しさやできる喜びを感じさせてあげることが困難な児童をどのように導いていくのかが大きな課題である。</li> <li>・家庭学習では、徹底的な復習反復練習が必要である。宿題の提出率が低い児童が各学年一定数いる。家庭での学習習慣が低い。</li> <li>・社会科、理科では用語や知識の定着が不十分である。補うための練習問題や反復学習を今以上に増やす。</li> </ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 学力向上に関する年間の取組

時期	取 り 組 み									
5月										
6月										
7月	夏休み前ふりかえり期間① 夏休み補習教室									
8月	夏休み補習教室									
9月	前期末ふりかえり②	「梅若タイム」毎週木曜日6校時	昼学習 月水金曜	チャレンジ教室・プラムスクール・放課後学習	わり算道場	朝学習 火水金土曜	校長模範授業と研修	若手授業研究会	算数少人数4展開 管理職	日常的な授業改善
10月	前期末ふりかえり②									
11月										
12月	冬休み前ふりかえり期間③									
1月	学習効果測定(算数) 学年末始ふりかえり強化期間④									
2月	↓ 区学力状況調査類似問題の取組 前学年徹底復習									
3月										
4月										

学力向上委員会の学力向上主任を中心として校長、副校長、主幹教諭、研究主任、学力向上担当教諭で構成する。全校をあげた組織的な徹底取組を行う。毎月1回、進捗状況を把握し手だてを打つ。

令和5年度学力目標

R5年度 「復習+授業+練習」の1時間の授業の流れと家庭学習の習慣化。予習の定着。

基礎基本の徹底定着と忘却率の低下を緩やかにする。

- ① マルグシステムを活用した、個の特性に応じた反復学習。1～3年生
- ② モノグシステムを活用したAI徹底復習と練習による忘却防止。全学年全教科
- ③ ミライシードを活用した現学習の定着促進。全学年全教科

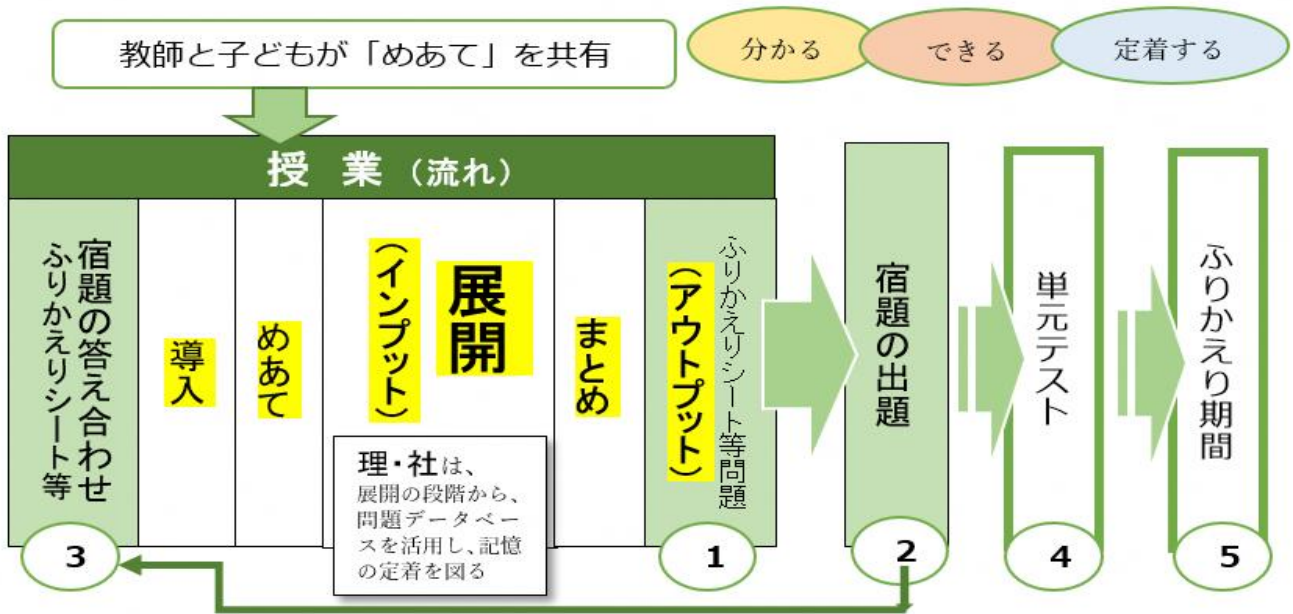
D層上位のC層への底上げ、全体の40%未満にする。全学年正答率前年度比3%向上。

### (2) 梅若学習メソッド

#### 1. 朝学習の設定

月曜日	1～3年生 全校朝会	4～6年生 全校朝会
火曜日	1～3年生 マルグシステム	4～6年生 漢字(アプリやシート等)
水曜日	1～3年生 マルグシステム	4～6年生 社会科、理科(データベース等)
木曜日	1～3年生 読み聞かせ	4～6年生 読み聞かせ
金曜日	1～3年生 マルグシステム	4～6年生 社会科、理科(データベース等)
土曜授業	1～3年生 マルグシステム	4～6年生 算数(アプリやシート等)

**2. 復習と練習の徹底で、学習事項の確実な定着を図る。「復習+授業+練習」の1時間の授業形式**



**3. 屋学習 月、水、金曜日 モノグサシステムに取り組む。全学年**

4. 授業で問題データベースを活用する。(理科、社会) 朝学習や梅若タイムでも取り組む。
5. ふりかえり期間 7月、9～10月、12月、1月～4月(授業後の練習問題や朝学習、宿題)では、学習進度に合わせて、振り返りシートだけでなく、問題データベースも柔軟に活用する。
6. 毎週2回以上朝学習や家庭学習で行う。ページを細分化して短時間実施。
7. 漢字の一気学習を9月までに終え、以降反復練習によって定着率を向上させる。
8. 未習熟者対象の九九道場と筆算道場の設置(毎日休み時間2回)2,3年生対象
9. 理科 毎単元総復習の徹底、練習問題の徹底、朝学習での実施
10. **ターゲット補習学習 チャレンジスクール(3年生)木曜日、プラムスクール(C層)火・金曜日、補習教室(D,E層)火曜日 希望制からターゲット指名制とする。**
11. **5,6年生の算数指導を4展開とする。(D,E層を対象に管理職が行う。)**
12. 年度内学習効果の効果測定を行う。(算数1月)
13. 4～6年生の毎週木曜日6校時を「梅若タイム」として、各教科の復習や定着を図る学習を行う。
14. なるべく2月末までに教科の単元進行を終了し、3月は復習期間として定着を図る。

**(3) 梅若授業改善メソッド**

1. 梅若スタイルの設定 授業方法のモデル化の定着(下記)
2. 校長による課題解決学習法の模範授業研修会(各学級1回以上)を年間12回以上行う。  
各教科別の学習過程を明らかにし、授業実践する。
3. 児童による課題の自己採点力の向上。進む児童の次課題の提供と遅れている児童への個別指導。
4. 若手授業検討会(4人×3回 時間外 OFF JT、自由参加)
5. つまずきの解説を重要視し、その後の再学習によって確実に定着させる。
6. エピソード記憶の重視 NHK for school や動画などを活用し、教え込みにならない指導。
7. 学力調査の前年度問題を日常的に参考にして、つまずき傾向に対する徹底的な補充をする。
8. 振り返りシートと問題データベースを活用し、社会科と理科の定着を図る。

(4) 課題解決学習指導)方法の定着

**梅若学習スタイル**

全学級が統一した学習方法を行うことで、児童に課題解決学習方法が身につく。(教室掲示)

1. 復習をする。
2. 今日の問題を知る。見通しをもつ
3. 学習課題を立てる。(青囲み、青字) めあての提示
4. 自分で考える。
5. 友達と考える。
6. まとめる。(赤囲み、赤字)
7. 練習問題を解く。

※ 学力向上のための梅若小学校の共通認識

(各学年修了時までには必ず身に付けさせておきたいこと)

- |     |                    |     |        |
|-----|--------------------|-----|--------|
| 1年生 | 10の合成 繰り上がり下がりの加減算 | 2年生 | かけ算九九  |
| 3年生 | わり算 ローマ字           | 4年生 | 47都道府県 |
| 5年生 | 小数四則計算             | 6年生 | 分数四則計算 |

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各学年各教科ともD層の割合を3ポイント減らす。B層の割合を3ポイント増加させる。
- ・各学年各教科とも平均正答率の3%以上向上
- ・各教科の基礎分野の平均正答率を全国平均に近づける。
- ・児童アンケートによって授業が楽しいと答える児童を80%以上にする。算数の授業が分かると答える児童を85%以上とする。(1月まで)
- ・同一集団の成長過程において、全学年が令和5年度比で向上させる。